

先人から伝わる事柄で生じる影響

3年1組26番 藤本遥人
3年2組 2番 大信龍太郎
3年2組 5番 尾上悠介
3年2組18番 野田陽向太

Keyword:「偏見」「恐竜」「説」「絶滅」「差別」

1. はじめに

私たちは恐竜が大好きだ。小学生の時にジュラシックパークを初めて見て恐竜に関心をもった。そして初めてユニバーサルスタジオジャパンに行った時、ジュラシックパークエリアで恐竜についての動画が流れていた。動画の内容は「なぜ恐竜は絶滅したのか」「恐竜はいつまで存在していたのか」などだった。それらを見て私は疑問を抱いた。現在この世界では、さまざまな恐竜に関する説が存在する中で、それらのほとんどは確証的なものではなく、どの説が本当なのかわからない。例えば、「恐竜の絶滅した理由は隕石である」や「ティラノサウルスは二足歩行である」などである。ほとんどの人が知っている恐竜に関する知識が全て、正しいとは言い切れない。私たち自身で探究をすればさまざまな説の中で、納得のいく1番確証的な説を見つけられると考えた。もう一つの動機としては、ジュラシックパークの映画などは、いったい誰がなにを根拠にして映画を完成させたのか、恐竜の容姿が仮に本当だとした時にどうやって現在に伝わったのか、現在まで伝わってきた恐竜の話はどこまでが本当なのか。人間と恐竜の関係性はいったいどんなものだったのかなど、これらの疑問を解決するために私たちは恐竜について探究したいと考えたのだ。恐竜はスピリチュアル的な話で伝説に近い話である。だから人によって話が違ふし、どれが本当なのかもわからない。この世界にはこのように本当かわからないのに広まった説などが多数存在しているため、私たちはそんな説の伝わりかたも探究していきたい。答えのわからない説が多い中、私たちの探究のゴールは自分たちのグループの中で一番納得のいく説を見つけ、伝えていくことだ。それができれば、結果的により納得のいく話を周りや後世に伝えていけると思ったからである。

2. 序論

以下の三つの論文は、恐竜の絶滅に関する論文である。これらの論文はそれぞれ異なる説が書いてある。私たちはこれらの恐竜の説についての様々な論文を比較して、どの論文の知名度が高いのかの統計を取ろうと考えた。そしてその統計をとった上で、我々にその統計はどのような影響を与えているのかを調べていこうと思う。

『恐竜絶滅の最前線』のAlvarezとSchulteら（2010）はこのように述べている。

「6550 万年前の白亜紀古第三紀境界に、地球に直径約 10 km の小惑星が衝突し、大量に巻き上げられた塵によって太陽光が遮断され、寒冷化に加え光合成生物が死滅した結果、食物連鎖の最上位にいた恐竜が絶滅した」

この論文ではAlvarezとSchulteらは恐竜が絶滅した理由は隕石による寒冷化によるものだと述べており、この説がわれわれ一般的にもよく見受けられるものである。しかし以下の論文を見てみるとこの論文とは異なるような説が見受けられる。

アメリカ公立特集「Look American Toursアメリカ公立公園特集」【恐竜の様々な説】には、次のように述べられている。

「6500万年のちょっと前(とはいっても地球規模なので万年単位)に、突如1000年程も続く世界規模の大噴火がおこったとする説。火山の噴煙の効果は、『太陽光がさえぎられる』、大量のマグマが地上に吐き出されることによって大地があるていど沈み『海が後退』、大陸棚が干上がり生体系が狂う等の効果が考えられる」

また「NATURE ASIA」『小惑星が地球に衝突する前に恐竜の多様性は減少し始めていた』の論文のような元々恐竜の数が年々減少していったという説もある。それはFabien Condamineたちの研究チームによるものである。

「1600点の恐竜化石を分析し、恐竜の6つの科(アンキロサウルス科、ケラトプス科、ハドロサウルス科、ドロマイオサウルス科、トロオドン科、ティラノサウルス科)の種分化速度と絶滅速度を評価した。その結果、非鳥類型恐竜の多様性が約7600万年前に減少し始めたことが分かった」

三つの論文を読み比べてみても、恐竜の絶滅に関してさまざまなことが書かれており混乱している感が否めない。代表的なものは「恐竜は小惑星衝突の前から徐々に衰退し、衝突は最後のとどめを刺しただけであり衝突を生き延びた恐竜がいる。」などであり、いずれも衝突説を過小または否定的に論じる際に取り上げられる話である。私たちはこれらの数ある説の中から1番知名度の高い説を奈良県立国際高校3年生を対象にアンケートで調査し、どれほどの人が異なる知識を持っているのか確かめ、異なる知識を持っているとどのような影響が出るのかを調査していくことにした。また私たちは、これらの異なる知識を偏見と仮定し具体的にどのような影響が出るのかも調査することにした。

3. 本論

アンケートの結果から、隕石に関する絶滅が68%、氷河期による絶滅が17%、紫外線による絶滅が7%、その他が8%でどれも説なので正しいとは言えないというものだった。私たちはこれらの結果からやはり恐竜は隕石によって絶滅したと思い込んでいる人々がほとんどであり、人々は思い込んでいることを知識として捉えていると考えた。そして私たちは、これらの思い込みが知識になっている影響が偏見でも同じことが言えるのではないかと推定し、そこで私たちは分析をした。

このような人々の思い込みの違いから、昔の説から現代では偏見という名前に変わって生きているのではないかと思った。特にここで取り上げたい偏見は「LGBTQ」や「日本にいる在日外国人」などだ。これらは悪い事だと取り上げられていた事が過去にある。現代ではそういう差別や偏見の減少を促す活動が見受けられるが、少し前では酷い扱いをしていたり、気持ち悪いと思われる偏見があったという事があった。最近テレビや新聞で、「LGBT」など多様な性についての情報が取り上げられる機会が増えてきた。明石市の『性の多様性について』によると「性のあり方」は、一般的に言われる「男性」「女性」という2通り以上にもっと多様であるという考え方が広がってきており、出生時に割り当てられた性別、自認する性、好きになる性、表現する性などの組み合わせによって、一人ひとりの性のあり方は異なり、異性が好きな人、男女で結婚する人、性別に違和感を持ったことがない人なども含めて、性の多様性はすべての人に関わると言える。このようにこれは悪いことではなく、人の個性として受け入れる事ができたらいいと思った。

「LGBTQ」が悪いという偏見がある人があるかもしれない。しかしそれも昔の人が言っただけで、それが正しいと思い込んでいる知識として捉え現代まで影響していると考えた。このような思い込みが、私たちが探究してきた、恐竜にも言える。他の作者の論文と論文を比べて読んでいたが、本によって書いていることが異なっていた。しかしどの本もそれが正しいと言うような書き方で

あった。このように現在異なる説が多々ありどの説が有力であるかどうか定かではない。その中から年功を見てどの説が1番有力なのか調べた結果Alvarezの論文には次のように述べられていた。

「1980年に小惑星衝突説を提唱したAlvarezらである。6550万年前の白亜紀古第三紀境界に、地球に直径約10kmの小惑星が衝突し、大量に巻き上げられた塵によって太陽光が遮断され、寒冷化に加え光合成生物が死滅した結果、食物連鎖の最上位にいた恐竜が絶滅した」

私たちはこの説が1番有力だと仮定した上で、この論文を参照にアンケートを取り、奈良県立国際高校3年生での恐竜の絶滅の知名度について検証したいと思う。

4. 結論

アンケートの結果Alvarezの絶滅説が1番多いという形になった。しかし正直なところ自分たちの納得のいくところまで探究し続けることができなかった。しかし高校でこのような論文を書くことの大変さ、文字に起こすことの難しさを学んだ。大学では高校の論文を活かして自分達の興味のある事についての探究をしていきたい。今回の私たちのテーマは先人から伝わる事柄で生じる影響についてであった。特に「恐竜」を取り上げて探究してきた。恐竜についての事はどれも確信のある事はなかった。さまざまな作者の論文を読んだりしてきたが、人によって内容が異なっていて、どれが正しいのかわからない。しかし先人から伝わる事柄は、社会や文化に複雑で深い影響を及ぼしており、歴史や伝統は、特定の地域や共同体において共有される知識や行動の枠組みを提供し、これが社会の基盤となっている。また先人たちが積み重ねた経験や知恵は、現代社会においても尊重され、受け継がれている。この影響は文化において特に顕著であり、芸術、言語、宗教などが先人の遺産を反映し、伝統的な芸術形式や言語は、歴史的な連続性を保ちながら新たな表現形式や意味を生み出しており、また宗教的な信念や儀式も、先人の精神的な探求と経験を継承し、共同体を形成している。さらに、先人の遺産は社会の価値観や道徳にも影響を与え、伝統的な価値観は個人の行動や意思決定に影響を及ぼし、共同体全体の道徳的な基盤を形成している。これにより、社会は一定の秩序と安定性を維持しつつ、同時に変革や進化にも適応しており、総じて先人からの伝承は社会的な結束を生み出し、文化の多様性を支える重要な要素であり、その影響は現代社会においても深く根付いている。

5. おわりに

私たちは、今回の論文制作において初めに根本的な課題を見つける重大性を学んだ。私たちが今回の論題を選択した理由も明確ではなく、はじめに的確な目的もあまりない状態で論文を書いていたので後に論文の内容自体もあやふやになってしまい結局的に自分たちで納得のいく形で終わる事ができなかった。そのため、大学やこの先物事を始めるにあたって具体的な目的を持つことが将来私たちが必要になる能力だと感じた。

6. 参考文献リスト

【論文】

1.Schulte とAlvarez『恐竜絶滅の最前線』2010/9 p945 vol80 No,9

https://www.researchgate.net/publication/305597430_konglongjuemieyanjiujunozuiqianxian

【ウェブサイト】

1.「NATURE ASIA」『小惑星が地球に衝突する前に恐竜の多様性は減少し始めていた』

<https://www.natureasia.com/ja-jp/earth-env/research/13731> 参照日2023.12.11

2.「Look American Toursアメリカ公立公園特集」【恐竜の様々な説】

<https://park.looktour.net/national-park-info/%E5%9C%B0%E7%90%83%E5%89%B5%E4%B8%96%E7%89%A9%E8%AA%9E/%E6%81%90%E7%AB%9C%E6%BB%85%E4%BA%A1%E3%81%AE%E6%A7%98%E3%80%85%E3%81%AA%E8%AA%AC> 参照日

2023.12.11

3.「明石市」『性の多様性について』

<https://www.city.akashi.lg.jp/seisaku/sdgs/lgbtqsogie.html> 参照日 2023.12.11